

キャラクター名  
 横島 永士(まきしま えいと)

プレイヤー名

シンドローム	ノイマン ブラム=ストーカー		ワークス	UGNチルドレンB	カヴァー	小学生
	オプション		年齢	12	性別	男
覚醒	犠牲	衝動	吸血	初期侵食率	38	%
出自	名家の生まれ	経験	心の壁	邂逅	同志	

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値	HP	26
肉体	1	0	0			1	行動値	12
感覚	2	1	0	1		4	(非装備時)	12
精神	4	0	0			4	戦闘移動	17
社会	1	0	0			1	全力移動	34

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵			射撃	2		RC	1		交渉		
回避	1		知覚			意志			調達		
運転:			芸術:			知識:			情報: UGN	1	
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
レイジングシューター	射撃	4r	-	10/15		マイナーアクションで使用(シールド効果)と射程が1の左側になる(効果は使用時またはシールド時に解除)両手持ち(互斥不可)

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

所持品	
フォールンスプライト	
サイドリール	
ウェポンケース	

合計装甲: 0    合計回避: 0

ロイス				
対象	感情(pos)	感情(neg)	タイム	消費
秘密兵器	P	N		
ジャック	P 友情	N 悔悟		
ヒーロー	P 憧憬	N 隔意		
『レブダゴラ』	P 好奇心	N 敵愾心		
	P	N		
	P	N		
	P	N		

最大財産P: 2    残り財産P: 1

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果: 非オーヴァードのエキストラ化								
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果: コスト分のHPで復活								
コンセプト:ノイマン	2	2	メジャー	-	-	-	-	
効果: C値-LV(下限値7)								
クイックモーション	3	2	マイナー	至近	自身	自動	-	
効果: マイナーで行えるエフェクト以外の行動をひとつ行える								
アサルトルーティン	1	3	マイナー	至近	自身	自動	リミット	
効果: ↑と組み合わせて使用/攻撃力+10								
コンバットシステム	3	3	メジャー	-	-	対決	-	
効果: 判定ダイス+[LV+1]個								
ブラッドリーディング	★	-	メジャー	至近	単体	自動	-	
効果: 血や体液などからその主の情報を読み取る								
構造看破	★	-	メジャー	至近	効果参照	自動	-	
効果: 人工的な機械や建造物などの構造を解析できる								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								

○長いので最悪こだけ読んでください。  
 大切な家族を誰にも助けてもらえなかった経験から、「ヒーローなんて現実にはいない」という達観した思考になってしまった少年。他人を頼らず、全て自分でこなそうとする節があり、他人に頼らなければ生きていけない奴のことを弱者だと見下している。生意気なクソガキ。

-----  
 ○ここから詳しい設定。  
 由緒正しい警察一家に生まれた子供。  
 一人っ子だったが、生まれた頃から飼った犬の「ジャック」とずっと一緒にいたため、彼を一番の友達であり、本当の兄弟のように思い、ずっと大切にしていた。

父親が警察だった影響もあってか、幼い頃から「ヒーロー」という存在に憧れていた。困っている人がいたらどこにいたって助けに来てくれるような、そんなカッコいいヒーローがきついているのだと信じて疑わなかったし、自分もそんな存在になれるといいと思っていた。

しかし、4年前、彼らの住む街を大きな地震が襲う。永士は運良く助かったが、彼の両親は瓦礫に押し潰されて即死してしまっていた。  
 絶望に苛まれていた最中、永士の耳に聞き慣れた犬の声が聞こえた。ジャックだ。ジャックは奇跡的に、瓦礫と瓦礫の隙間に挟まれながらも生きていた。

瓦礫をどかしてジャックを助けようとするが、子供の力ではどうにもならない。永士は必死に、周りの人間に向けて叫んだ。「誰か助けて」「ジャックがまだ生きてるんだ」

「けれど、その声は誰にも届かなかった。  
 災害下で、自分の命すら危うい中、他人に手を差し伸べられる人間など、そういない。  
 ーましてや、犬など、もつてのほかだ。」